

# 東京の生協のまちづくり活動トピックス

今年度のテーマが決まり本格的な活動がスタートした自治体別まちづくり活動。今回は3つのまちづくりの活動報告と、東京都生協連での生活困窮者支援についてお知らせします。



## 荒川区まちづくり 新たな会場でリスタート！

これまで使用していた会場の閉鎖と新型コロナウイルスの感染拡大が重なり、行き場を失っていた「荒川コープカフェ」。

地域の方の再開を待ち望む声に応えられるよう、会場探しや話し合いを進めていく中で新たな会場として、まちづくりのメンバーでもあるワーカーズコープが受託運営し、4月にオープンしたばかりの「東尾久本町通りふれあい館」を使用できることになり、感染拡大が落ち着く日を待ちました。

そして、ようやく6月9日(木)に約2年半ぶりに再開。久しぶりの地域の居場所としてのカフェをとにかく楽しんでもらおうと、この日は地元で演奏のボランティア活動をされている演奏家のコンサートで、馴染みの曲を聴いたり歌ったりしながら、参加者は終始笑顔で時間を過ごしました。

これまでのように、ドリップしたての美味しいコーヒを提供したり、にぎやかにおしゃべりを楽しむことはまだできませんが、参加者のニーズに応えられる居場所として、これからは長く愛されるよう、工夫しながら毎月開催していきます。



コープみらい・東都生協・東京はくと医療生協・東京ふれあい医療生協・ワーカーズコープ・荒川区社会福祉協議会・東尾久地域包括支援センター

## 足立区まちづくり 足立の現実を知る学習会 vol.1

### 困窮子育て家庭への支援について学びました



貧困問題を知るために、7月14日(木)一般社団法人『チョイふる』代表理事の栗野泰成さんをお招きして、「寄り添いの現場から見えること」をテーマに支援活動の現場のお話を聞き、交流しました。

栗野さんは子ども食堂を運営していて、支援が必要な子どもほど、支援の手が届かないことに気づいたそうです。

そこで、支援が必要な子どもを支援に繋げるために始めた、アウトリーチ型支援のこども宅食「あだち・わくわく便」と、親子にとって家でも学校(職場)でもない第三の居場所として「あだちキッズカフェ」をスタート！

この2つの取り組みから子育て家庭の課題を把握し、信頼関係を築き、必要な支援へ繋ぐ地域協働型子ども包括支援ネットワークを構築して、子どもたちを誰一人取り残さないことを目指しています。

交流では「初めて知って感動した」「活動を支え増やすための連携を考えたい」「なぜ現場と行政が繋がらないのか納得した」「医療生協の無料低額診療も紹介して欲しい」など、活発に意見交換しました。これからは連携してできることを探していきます。

コープみらい・パルシステム東京・東都生協・東京はくと医療生協・東京ふれあい医療生協

## 東久留米市まちづくり 市内で生活困窮者支援活動を行う団体からお話を伺いました



今年度の活動目標の具体化の一つとして、8月25日(木)、東久留米フードパントリーひよこ事務局の田守緑さんから、お話を伺いました。「東久留米フードパントリーひよこ」は、食の支援が必要な人に食の支援が届く「やさしいまちづくり」活動を目指し、2021年9月に開設。これまでに2回フードパントリーを実施しました。その活動を通じて課題となったのは、本当に必要な方に届けるにはどうすればよいか、ということでした。メンバー間で話し合い、今年4月からは飲食店の定休日にお店をお借りして、新たに「ひよこ食堂」をオープン！月3回、地域の居場所になっています。

「ひよこ食堂」の食材には東都生協の予備野菜が利用され、パルシステム東京からもお米の支援を受けるなど、生協の支援が大きな助けになっています。これから地域で活動する東久留米市まちづくりとも緩やかにつながりたいというお話をいただき、この日の定例会にも参加していただいて、まちづくりメンバーとの交流も深めることができました。現在は、3回目(10/30)のフードパントリーに向けて準備中です！



コープみらい・パルシステム東京・東都生協・西都保健生協

## 東京都生協連 CO・OPの化粧品や日用品を多くの方の支援につなげることができました



3月から6月にかけて、日本生協連より寄贈の申し出があったCO・OP化粧品や日用品を、交流会などでつながりを作ってきた都内のフードバンク団体などや、まちづくり活動でつながりのある社会福祉協議会を含む15団体を通して支援につなげることができました。今回寄贈いただいた商品の総数は段ボール箱3,645個分、重量にするとなんと25トン。これだけの物資を多くの方に届けるまでには、日本生協連をはじめ各フードバンク団体や社会福祉協議会など、たくさんの方の協力なくしては実現できませんでした。今回の取り組みを通して、改めて支援活動に取り組む団体のパワーとネットワークの重要性を実感しました。

商品を受け取った方からは、厳しい日常の暮らしを守ることに精一杯で自分のことは後回しになることが多い中で、「久しぶりにたくさんの化粧品をもらったので、自分ケアの時間を楽しみたいです!」、「心に潤いをもらえました!」「子どもたちもリップクリームやネイルをみて喜んでいきます!」といった喜びの声が多く寄せられました。

